

1. 実験概要、留意すべき項目

- ・ 南海トラフ巨大地震に備え、浜名湖サイクルツーリズムで培ったノウハウや平常時の人・モノ・場所・仕組みを有効活用して、災害発災後、自転車による地域への情報伝達、支援物資や巡回訪問の見守りなどの復旧・復興時の支援活動態勢について検証する。
- ・ 災害時に、自転車を活用した被災者の生活支援体制の構築につながる調査となっていること。

2. 今年度の調査内容、調査結果

【災害に対応できる自転車活用情報の収集】

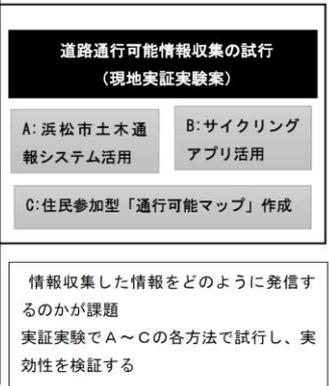
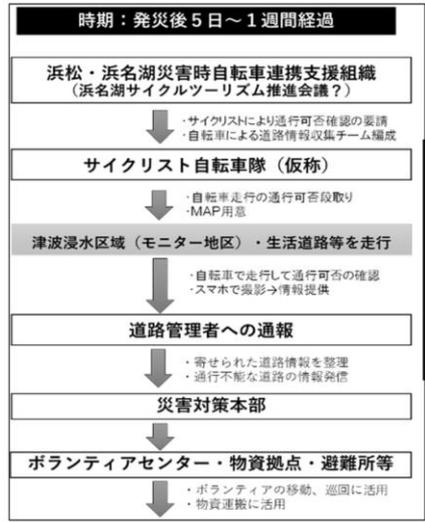
- ① 受入施設、メーカー等の意向調査⇒**災害発生後の自転車活用に協力可能**
- ② 災害時に活用できる自転車の情報収集⇒**机上調査、ヒアリングを実施**
- ③ 通行可否情報の収集方法の検討⇒**情報収集のフローを作成**

【自転車活用による物資運搬計画】

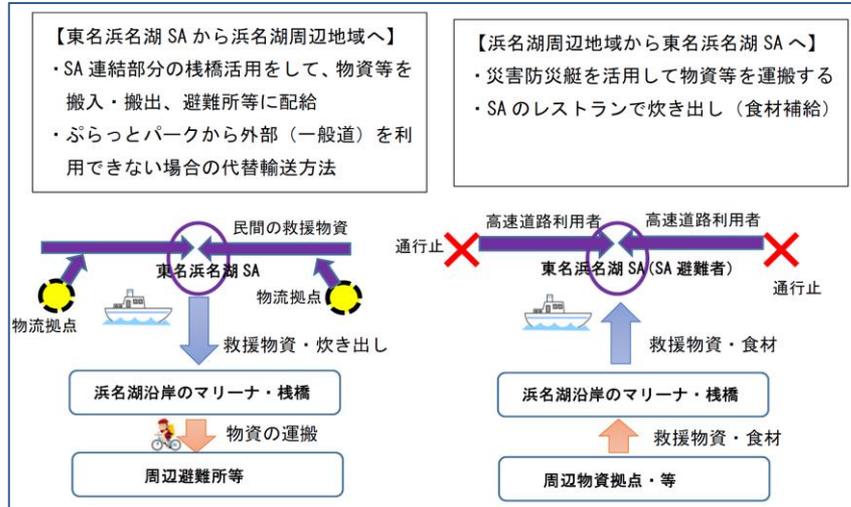
- ① モニター地区の選定⇒**選定済み**
- ② 物資運搬シミュレーション
⇒**計画案作成(避難所から在宅被災生活者、浜名湖SAから避難所)**



災害時に活用できる自転車



情報収集のフロー



避難所へ物資運搬計画 (浜名湖SAから船と自転車により避難所へ)

3. 次年度の社会実験に向けて

実験メニュー	実験内容
災害時の自転車活用による物資運搬等の試行	<ul style="list-style-type: none"> 在宅被災生活者への試行 障害物や段差の道路での試行
高速道路SAの防災拠点化実験	<ul style="list-style-type: none"> 浜名湖SAから被災地へ、支援物資の運搬を検証 SAが一時避難所、孤立化した際の支援の検証
災害時の自転車による道路通行可否の情報収集実験	<ul style="list-style-type: none"> モニター地区(浜松市)で災害時の通行可否情報の収集、発信を検証

4. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
自転車の活用においては、地域との協力や地域の各グループを連携させることで何かできることがあるのではないかな。	意向把握で得られた情報を基にサイクルツーリズムの連携地域にも実験で協力してもらおう。
民間事業者が実施しているシステムが参考になるのではないかな。	<p>民間の自転車による荷物運搬サービス2社のシステムを検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマト運輸では、台車や自転車などを使い、“短時間“で、お客様のお荷物の集荷・配達業務を行っている。特に大都市で活用されている。 ・ウーバーイーツは、飲食の出前を「パートナー配達員」として登録した一般の人が空いた時間を利用し、自転車等で配達業務を行っている。世界7カ国33都市で展開し、日本も大都市で展開・拡大している。
袋井市の地域防災計画など既に自転車の活用をしている自治体にヒアリングしてはどうか。	<p>一般的な地域防災計画では、車での避難以外の方法は明記されていないところが多い。</p> <p>また、国や消防庁の指針やマニュアルでも避難の方法について車ではなく徒歩となっているが、自転車の避難は明記されていない。</p> <p>袋井市の地域防災計画では、徒歩と自転車による避難を原則としており、それらを検討した。</p>
近年被災した自治体にどのような支援をしたのか、自転車が使えるかをヒアリングしてはどうか。	社会福祉協議会や自転車店などにヒアリングした結果、過去の災害において被災地への支援と自転車の活用の教訓、事例は多かった。
どのような自転車が災害時に使えるのかが見えにくいいため、災害時に使える自転車の規格等を今後検討してみてもどうか。	今年度、災害時に活用できる自転車及びパーツの調査を行った。

5. 今後のスケジュール

- 令和2年度: 現地実証実験の実施(関係者との調整、サイクリスト、協力店の募集)
- 令和3年度: 本格実施に向けた課題整理、可能性検討
(避難訓練で継続実施、地域防災計画への反映を検討、防災用自転車の配備)
- 令和4年度: 本格実施予定(災害時自転車の定着化)